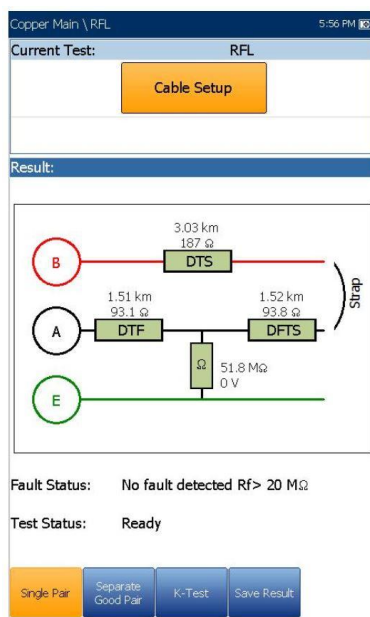


## ヒアリング結果 (MAX-610)

- TDR の機能は、イベントを自動判別してくれるのが使いやすかったです。ケーブル断線箇所を探るのに使えそうです。
- RFL の機能は、今まで体験したことがない機能でした。絶縁不良個所が、ドンピシャで探れるのが素晴らしいです。今までは 4 日間程度かかっていた調査作業が 30 分で終わりました。
- RFL が約 50MΩ まで測定可能かを確認。



- 30MΩ 以下の不良箇所まで探索することが出来るため、作業効率の向上が期待できる。(50MΩ 以下の回線は不良と判断し、1 か月以内に補修しなければならぬ)
- 絶縁試験で印加カウンタを設定できるので、作業者毎の測定値ばらつきがなくて良いかと